

# 朝倉の梯子獅子



平成25年度 朝倉の梯子獅子フォトコンテスト 特選 小嶋 健さんの作品「青空の下のもとで」

日程 平成26年10月4日(土) 獅子舞奉納 午後7時～9時30分  
平成26年10月5日(日)

大祭式典 午前10時から、子供獅子奉納 午前10時15分から

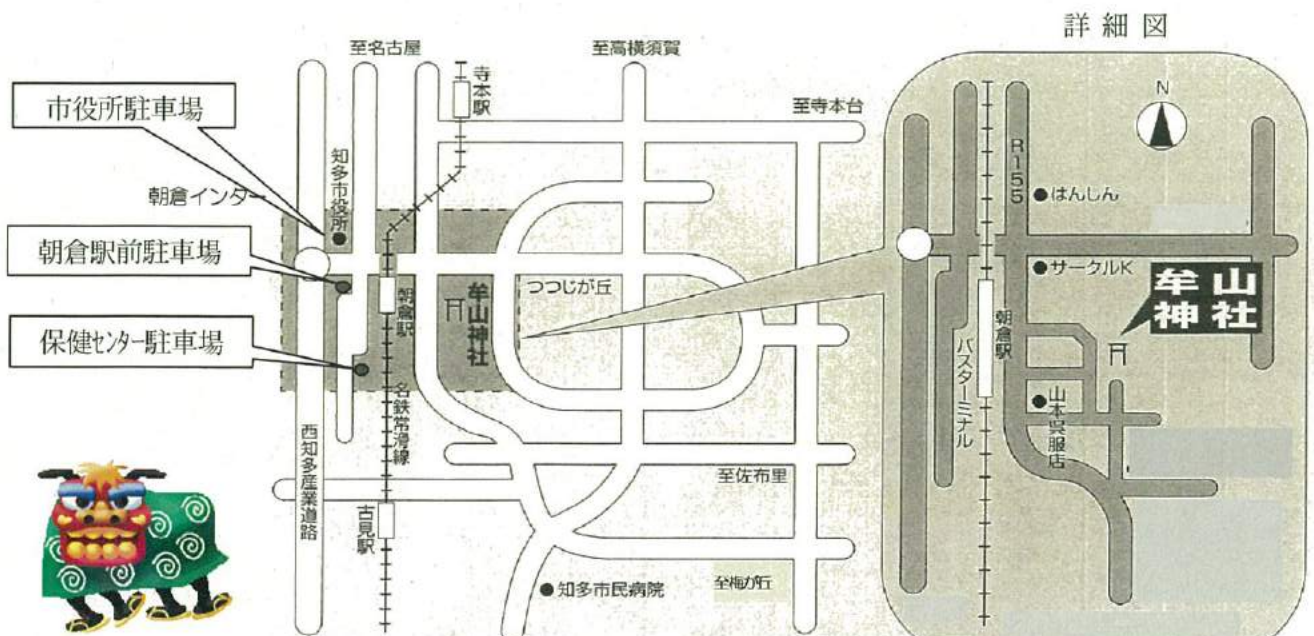
獅子舞奉納 午前11時～11時20分、午後1時～4時、午後7時～9時30分

場所 牟山神社 (知多市新知字東屋敷、名鉄常滑線朝倉駅下車徒歩3分)

駐車場 牟山神社付近に駐車場はありません。

朝倉駅前駐車場 (62台。100円/時間)

市役所駐車場 (無料)、保健センター駐車場 (無料)





## 朝倉の梯子獅子

朝倉の梯子獅子は牟山神社の神事として毎年10月の第1日曜日とその前日に、31段の梯子と高さ約9メートルのやぐらの上で、雄獅子の面をかぶった二人一組の獅子がお囃子に合わせ、はなれ技を演技します。運勢の舞、櫓上(ろじょう)の舞、感謝の舞の三部構成で、約30分間のハラハラ、ドキドキの舞が楽しめます。獅子の服装は素朴で、竜紋の絆てん、あられ模様の股引、腕拔を着用、片足白足袋、片足黒足袋を交互にはいています。

### 梯子獅子の由来

口碑によれば、文明11年(1479年)本殿再建のとき、獅子舞が奉納されたといわれます。梯子獅子の起源については、慶長の初めごろ、朝倉村にイノシシが現われ、農作物を荒らし、被害がひどくて、村人はたいへん困窮していました。当村の惣右衛門という人が発起して、村民の協力によって梯子を造り、慶長3年12月(1598年)梯子攻めにしてイノシシを退治したので、田畑は荒らされず、翌年は大豊作であったそうです。そこで村人たちは喜びあって、豊年祭とともに獅子の供養を思い立ち、翌慶長4年の例祭に、梯子に登る雄獅子の舞を演じたのがその始まりであるといわれています。

### 舞台への出場

打囃子(曲目が5曲ある)によって、生気に満ちた獅子が舞台におどり出て、手に持った塩を、まき清めながらおどります。これは神前に対して御抜の儀式の象を表現するもの。次に七転び八起きの様子を笛太鼓と獅子頭のカツカツの音で調子を合わせて舞台せましと乱舞します。このときの囃子は、七音の横笛数本と神楽太鼓(ツケという)一対とによって囃し立てます。

### 運勢(うんせい)の舞

「祈年の曲」と囃子が変わります。ウスがカブを肩車して梯子を登ります。このとき、「ウンセイ」と、掛け声を発します。この掛け声は運勢のことで、吉兆を願う意味をもっています。氏子の安全を祈るとともに、農耕の豊作を願い、浜方の大漁満足を祈念するもの。そして左右に交互に振り返り振り返り、5段ごとに所作を繰り返しながら31段の梯子を登り天頂に至ります。

### 櫓上(ろじょう)の舞

囃子は「勤労の曲」へとかわり、梯子の天頂(山頂)についてやれやれ、といった気持ちで喜び勇んで峰に行く所作を示します。やぐらに渡してある3本の横木の上を動物と同じ足さばきで渡り始めます。つぎにノミトリの所作に入り、大アオリ(\*)の所作を行います。ここで一番観客が手に汗を握るところで、神を三拝する象を示し、農方では稲穂が重く垂れ下がり、風にそよぐ様を、浜方では大漁の網を力いっぱいあげる姿をかたどっています。

\* アオルとは足の甲を横木にかけて、突然仰向きざまに下方に三度反り返ること。

### 感謝の舞

曲はゆるやかな、のどかな調子の「豊年の曲」が囃されます。獅子はすべり木を降り舞台に戻ります。つぎにスカシ(\*)の所作にはいります。農方の豊年満作、浜方の大漁満足を祝う象です。打囃子に合わせて、三度跳び上がり、跳び返り、舞台せましとおどってくる。文字どおり、歓喜、感謝の舞です。打囃子が囃されて、獅子は楽屋へ下がります。曲はまだ続けられ、五曲打囃子が終わって、獅子舞は無事奉納されます。

\* スカシとはカブが獅子頭を左右に動かし、物をなですくう様を三度行うこと。